

鵜来型海防艦  
日振型海防艦  
夜のお勤め本

DOJIN

R18

成人向け

18歳未満の  
購入・閲覧禁止



「海防艦を戦闘に出すなんて可哀想じゃない？」

愚かなる大本営の鶴の一声で海防艦は戦闘任務から外されてしまった!!

危険な戦闘任務に代わり彼女たちに与えられたのは司令専用性処理係だった。

戦うことが生き甲斐の艦娘にとって戦地に赴くことが出来ないのは何よりの屈辱のはずだ。

あなたは優しい司令となって落ち込んでいる海防艦たちを慰めてあげましょう。

日振を慰める→5ページへ



大東を慰める→9ページへ



昭南を慰める→13ページへ



鶴来を慰める→17ページへ



稲木を慰める→21ページへ



ちなみに君=司令は生まれ持った個性により男性器の大きさを自在に変えることが出来るぞ。  
折角授かったこの強力な個性、活用しなきゃ勿体ないよね!

※この本は前作『択捉型海防艦夜のお勤め本』の続きですが、単体で楽しんでいただけます。 3

鵜来型海防艦  
日振型海防艦  
夜のお勤め本



日振は真面目な子だ。  
鎮守府の資金調達任務のためと説明したら  
大張り切りで着てくれた。

えと…  
いめーじびでお…?を  
撮るんですよね?  
頑張りますっ!

ひゃあ…この水着  
小さくないですか…?

# 日振聖海防艦一番艦 日振

お腹が出る  
水着なんて  
初めてです…

冷えちゃ  
いそう…

「ごめんね…  
予算不足で小さな水着しか用意出来なかつたんだ…  
でも日振が頑張ってくれたら大東や昭南たちには  
ちゃんとした水着を用意してあげられるから…」

最初は必死に身体を隠そうとしていた日振だったが、  
そう言い含めると縮こまらせていた身体をシャンと張った。  
お姉ちゃんとしての矜持がそうさせるのだろう。  
その姿だけで全国のロリコンはティッシュ三箱は余裕だ。

でもいくら頑張っても水着の面積は増えないんだよ…  
張り切る日振にはとても真実を告げられなかった。  
世の中には知らない方がいいこともあるのだ。





こんな薄汚い大人を信頼し  
頑張ってくれている  
彼女を見てみると  
愛おしさがこみ上げてきた。





既に準備は整ったようだ。  
媚薬のシヨンだけでなく  
日振自身から溢れる愛液で  
膣口はおろか尻穴までどろどろだ。

日振の小さな身体を抱きかかえるようにして  
私の膝の上に乗せチンポをあてがう。  
いわゆる後背座位のような形だが、  
海防艦相手だとすっぽりと腕の中に収まってしまう。  
へソまでもあるモノを見て  
流石の日振も緊張しているようだ。



媚薬の効果があるとは言え  
日振の穴はあまりにも  
スムーズに私の侵入を許した。

日振は戦いよりも  
エッチの才能の方が  
あんだね。

撮影してるんだから  
カメラを意識して

あっ  
びっ  
びす...

ほら日振

あっ

ぞし  
ぞし

あっ





凶悪な肉の槍に貫かれて盛り上がった日振のお腹越しに自分のチンポを握る。

今頃日振の中は肉褰が潰れ平になってしまっているかもしれない。

おおお

うん

あああ

彼女が狂ったように泣き叫ぶのは快楽に耐えられないからか  
不可逆な自分の身体の変化に怯えているからか。

あ

躊躇するのはかえって彼女の努力を踏みにじることになる。  
私は彼女の膺に思い切り精を解き放った。



カメラに向かってピースサインと笑顔を作ろうとする日振。腰が砕けてもう口々に動かない筋肉を必死に動かそうとする健気な姿に見るものは胸を打たれることだろう。

ビュルル

ああ

ああ

ああ

後で大東ちゃんと昭南ちゃんにも見てもらおうね。

あーん

# 日振型海防艦二番艦 大東

大東はこう見えて責任感が強い子だ。  
酷く気落ちしていた。  
だが大東は生きている。  
生きている者は前に進むしかないのだ。

じす

爆雷を手放そうとしない大東だったが、  
いつまでもこんなものを縁よすがにしていはいけない。  
少々荒療治にはなるが、  
ぐずる彼女から取り上げて庭に埋めておいた。  
春にはきつと桜が咲くだろう。  
心の支えにするなら爆雷ではなくチンポにしろ。  
彼女には生きる意味を与えてやらねばならない。  
大東が頑張れば日振はこんな仕事を  
しなくていいと言いつつ含める。

「よし、何でもやってやらあ!!  
あたいがひぶを守るんだ!!」

これは嘘だ。  
だが必要な嘘もある。

「さあ、まずはチンポ様に挨拶をするんだ」

調教の基本は主従関係をハッキリさせることだ。  
鼻っ柱を折るために大きくなったチンポを  
顔の前に突き出したところ、効果観面だった。

よ…よろしく  
お願いします…

怯える大東に私は以前見た  
調教師に噛みつかれる  
猿回しの猿を思い出していた。





あーっ  
あーっ  
はっ

反応を確かめるために  
既に撮影を終えていた  
日振の映像を見せる。

え…  
ひび…

子種  
たっぽり

ズミズミ

そっか…へへっ  
ひびも気持ちよく  
なってるんだね…

大東は日振が手籠めに  
されていることを喜んだ。  
成功だ。彼女はもうこの  
任務を幸福だと認識している。

驚くべき順応力はこども故であろうか。  
否。大東の才が為せるものだ。  
初体験で膣と尻穴の両方で啜り込める  
彼女はこのために生まれてきたのだ。

セクシー  
セクシー

セクシー

あっ提督…  
ちゃんと押さえ  
ててくれないと  
出ちゃうじゃん

ふん

へへっあたいが  
舐めてやるから  
また出してくれよな

直前まで自分の膣や尻穴に  
入っていたものだというのに  
お構いなしに口吻を続ける。

鈴口から溢れ出る精液すら  
溢さぬようにと小さな口で  
懸命に頬張る大東。

んっ  
んぐっ…

そんなに欲張らなくても  
これからいくらでも  
飲めるんだよ。



すっかり完成した大東に日振も交えての3Pを提案したが、大東は私のチンポを咥え込んで離そうとしなかった。私がイキそうになると小さなおみ足でホールドしてくる。まるで最後の一滴まで独り占めするかのよう。

大東の独占欲が強かったのは意外な発見だ。日振もそんな大東を微笑ましそくに眺めている。成長した妹の姿が嬉しいと同時に子供っぽい振る舞いが楽しいのだろう。慈しむようなその笑まひはまるで菩薩のようであった。

# 日振型海防艦三番艦 昭南

昭南は性処理任務を説明したら何の抵抗もなく着替えを始めた。彼女がこのような不遇な扱いも受け入れるのは諦めなのか、悲壮な戦歴を辿った前世の記憶によるものなのか。達観と言うよりもはや厭世の様相すらある。



日振姉えも、大東姉えも、これを……？  
……そう、分かりました！

こないたずら……  
択捉さんにも  
されたことないのに……

昭南のおまたを払げると既に水着が透けるほど濡っていた。もしかしてもう濡れているのか……？ いや違う。これはおもらしだ。

性処理任務が恐ろしくて漏らしてしまっただろう。かわいそうに。気丈に振る舞っていてもやはり内心怯えていたのだ。決しておちんちんは怖くないということを教えてあげなくては。







まだミルクの匂いのする  
小さな彼女の口に啜えさせる。

差し当たって性の悦びを  
知ってもらえばいいのだ。  
いまさら運命は変えようもない。  
それならば嫌々受け入れるより  
楽しんだ方がいい。  
そう、これは昭南のためなのだ。  
あーそこそこ。吸って吸って。

ちゅっ  
ちゅっ  
ちゅっ



昭南の口の中は  
ドロドロとした  
シチューのように熱く  
油断していると  
すぐに果ててしまった。

まだ飲んじゃダメだよ。  
しっかり味と匂いを覚えるんだ。  
むせ返らんばかりの性臭に  
内側から彼女は支配されていく。

んー  
しゅっ  
しゅっ  
しゅっ

肌に埋もれている乳首が  
薄皮に引っ張られて少しだけ顔を出す。  
感じている証拠だろう。  
だが引っ込み思案な彼女だからこそ  
自分の気持ちに素直にならなければ。

ほらちゃんと鏡で見るんだ。  
エッチな気分になってきたんでしょ？  
黙ってちゃ分らないよ。  
エッチはお互い気持ちよくならなきゃ。  
昭南ちゃん気持ちいい？

気持ちいいかって  
聞いてるんだよ



気持ちいいはずなのに  
彼女は何か怯えているように  
バツが悪そうな顔をする。

きっと心を許して  
しまいそうで  
怖いだろう。



彼女には少し強引な方がいいのかも知れない。肉壺に竿を突き立て思い切りピストンする。

読みは当たった。昭南は無理矢理される方が好きなのだ。

それならば今度はこつちだ。

禁酒法かたまたカリギュラ効果かいつの時代も人は抑制されると色めき立ってしまうものである。

無理矢理膣口をこじ開けて闖入するとようやく昭南が剥き出しの感情を見せてくれた。素直な昭南を見られておじさんは嬉しい。

今までうんちしか出したことのない可愛らしい菊穴は異物の侵入を拒むようにきつくすぼまり、却ってそれが気持ちいい。

犯されている自分に酔いしれお尻でみっちりど啜えこんだまま昭南は果てた。

鵜来型海防艦一番艦

鵜来

むに

期待の汗が溜まっていたおへそはくぼくぼと卑猥な音を立てて開いたり閉じたりする。

むに

はいはい

提督っ早くせつくすしましよっ♡

わくわく

わくわく

鵜来は既にエッチなことを期待しているようだ。だがそんなことではいけない。海防艦はエッチじゃない。それを分からせるため趣向を変えて攻めることにした。

ふあ...

鵜来のお腹をぶにぶにする。エッチなことをされると思っていた鵜来は突然のお腹攻めに困惑しているようだ。お腹を押したりおへそを拡げたり弄ぶ。

ふあ...

ふあ...

わん

わん



腹部を圧迫されて我慢出来なくなった鶴来がとうとう限界に達した。  
子供特有のほぼ無臭のおしっこがちよろちよろと可愛い音を立てながら解放される。  
昔田舎で遊んだ川のせせらぎのように澄んだ音だ。  
鹿威しでも置いておけば怪しい執務室も立派な日本庭園に変わるかもしれない。



最初は恥じらっていた鶴来だったが、  
すぐに見せつけるように脚を開き勢よく迸らせ始めた。  
手水場のような尿がもはや滝の様相だ。  
厭世的な学生が見たら飛び込んでしまうかもしれない。

「んっっ♡」  
「鶴来の恥ずかしい姿 提督に見られてる...っ♡」

こちらの目をじっと見つめながら下腹部に力を込める鶴来。  
まともな人間なら人に見られながら放尿することは勿論、  
人の目を見ながら放尿することなんて出来はしない。  
マゾヒストに取って身体の解放は心の解放なのだ。



アナルを舐めるよう指示すると何の躊躇もなく舌を這わせてきた。

んっ♡

んっ♡

んっ♡  
くさっ♡

もしかしてわざと洗ってなかったんですか？♡

洗ってても臭いものは臭いよ

あ♡

臭あ♡

ちゅちゅ♡  
ちゅちゅ♡

ほっ♡

一体何が彼女をそこまで貪欲に性行為に誘うのだろうか。空恐ろしくなった私は鴉来に「そろそろやめるよう指示したが鴉来は

「そんなこと言ってる提督のココ♡」  
悦んでますよ♡

と言って聞かなかった。

あま♡

んっ♡

あま♡

やっ♡

予想外の出来事だ。

鴉来は私を押し倒して執拗に菊穴を貪り続ける。

じゅるっ♡  
じゅるっ♡  
じゅるっ♡

じゅるっ♡  
じゅるっ♡

じゅるっ♡  
じゅるっ♡

あま♡

待っ♡

あま♡

あま♡

あま♡

まさか鴉来がここまでだったとは。



もうこうなつては仕方がない。  
鵜来にとってはこれが一番幸せなのだ。  
とうとう私は折れて望み通り  
挿入してやることにじた。

小さな身体全体を使って  
私のチンポを受け入れる。

無理な体勢でねじこまれて  
いるにも関わらず  
鵜来は随喜の声を上げている。

精を放出すると何も言わなくても  
お掃除フェラをし始める。  
どこでそんなことを覚えたのかと聞くと  
対馬に性知識を仕込まれたらしい。

その対馬はいざ自分が  
犯される立場になると  
恐怖に震えていたが…※

いやはや艦娘とは  
分らないものである。

あとで鵜来も交えて  
対馬をぶち犯そう。  
きつと楽しいぞ。

# 鵜来型海防艦十二番艦

## 稲木

うっ 鵜来姉さんならともかく  
私にはこんな格好  
似合わないだろっ  
〜〜

そもそも幼児体型の私に  
こんな紐みたいな水着を  
着せて何が楽しいんだ…

ぶつくさ言っている稲木をなだめすかして撮影に入った。  
どうにも海防艦は総じて自己評価が低い傾向にある気がする。  
海防艦が幼児体型なのは当たり前だから気にしなくていいのに。  
むしろそういうのが好きな人も世の中には多いということを知ってほしい。

稲木の膣口は非常に狭く、  
侵入は無惨にも阻まれた。  
しかじこれが本来の海防艦の形なのだろう。

うっ…  
ハニネゴキッ  
やめてっか…

鵜来に面食らった私は少々安心した。  
稲木はじっくりと時間をかけて  
ほぐしていくことにした。  
これもまた海防艦の醍醐味だ。





それから私はじっくりと時間をかけて稲木を開発していった。最初は拒否感から必死に耐えようとしていた稲木だったが、私の何日にも及ぶ愛撫に徐々にほぐされていった。

やがて稲木は自分からおねだりをしてくるようになった。驚異的な成長だ。

初めて潮を噴いた時などは感動に咽び泣きそうになったほどである。

だがまだチンポを挿入してはいけない。調教に最も大事なのは自制心である。

見なごぞ、

あめ、

あ、

あ、

あ、

あ、

あ、

あ、

あ、

あ、

あ、

あ、

あ、

今彼女は私の指をがっぼりと啜え込み  
尿を漏らしながら絶頂している。  
稲木はもはや完成したと言っでいいだろう。

てっ提督っ  
やめろっ やめてくれっ  
こんな...っ  
おもしろするなんて...っ

稲木のえっちな  
ところで  
提督の手を汚して  
しまつてすまない

彼女の秘所に指を差し込むと  
ところどころとした体液が溢れ出す。  
蜜壺とはよく言ったものだ。  
これだけ潤滑剤が出ていれば  
余裕で挿入出来るだろう。



いかに時間をかけて慣らしたとはいえ  
稲木の子宮内は非常に小さく、  
射精するやいなや膣口から溢れてくる。

もはや完全にチンポの虜である。

稲木はまだ子供が出来る身体ではない。  
存分に膣内射精をしたチンポを取り出して  
稲木の顔の前に差し出すと、  
何も命令しなくても舐め回し始めた。

んっ♡  
提督のせーしが  
私の中に出てるぞ...っ  
これは提督と私の子供が  
出来てしまうな...っ♡

慰  
め  
た  
!!

海  
防  
艦  
を



■  
前作『択捉型海防艦夜のお勤め本』に続き2冊目の海防艦本です。  
評判がよければ占守型とか御蔵型とか丁型とかもある…のかなぁ。  
評判よかったらいけないような気もするなぁ。

沢村青

## 鵜来型海防艦日振型海防艦夜のお勤め本

発行:適齢期に食中毒

著者:沢村青

mail:sawamura\_ao@yahoo.co.jp

twitter(X):@sawamura\_ao

pixiv:<https://www.pixiv.net/users/8615118>

発行日:2024年8月11日

印刷:日光企画

# Comic Market 104

